



令和3年 安曇野市 部局等の重大ニュース・トピックス

目次

総務部・会計課・ 選挙管理委員会事務局	1	保健医療部	6
政策部	2	農林部・農業委員会	7
財政部	3	商工観光部	8
市民生活部	4	都市建設部	9
福祉部	5	上下水道部	10
		教育委員会	11
		議会事務局	12

総務部・会計課・選挙管理委員会・監査委員事務局 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る・総務部等の出来事)

A:『押印の廃止』（総務課）

申請者の手続負担の軽減、より効率的でスムーズな市民サービスの提供を図ることを目的に、市に提出を求める申請書・届出書等への押印を全庁で見直しました。

4月1日より、申請書・届出書等の728件、全体の約56%について押印を廃止しました。

B:『新総合体育館建設工事 しゅん工検査を実施』（契約検査課）

初めての試みとなる技術提案を考慮した施工一括方式により建設された体育館のしゅん工検査を行いました。

大規模な建設工事であるため、専門分野に精通した職員が検査にあたり、出来高検査のほか延べ3回の中間検査を実施しました。最終のしゅん工検査では施工図に従い品質を確保し、監理者をはじめ監督員からの指示や協議事項への対応もよく、仕上がりも良好であることを確認しました。

C:『係長昇任試験を実施』（職員課）

複線型昇任制度を導入し、従来の年功序列型昇任制度から「能力及び実績に基づく人事管理」と「職員の主体的キャリア形成の選択」による制度に移行を図りました。

ライン職(管理・監督職)を希望する主査経験8年(標準で38歳)以上の職員に対し、現在、係長昇任試験を実施中です。

年度内に係長昇任候補者名簿を整備し、令和4年度の係長任用に活用する予定です。

D:『安曇野市防災マップを5年ぶりに全面改訂』（危機管理課）

水防法の改正により、概ね千年に1回程度の降雨による浸水想定区域図に見直し、また、信州大学に委託した地盤と地震動に係る調査結果を揺れやすさマップとして掲載し、各戸に配布しました。日頃から本市域が、どのような災害リスクを有しているのかを認識していただき、防災知識を身に付け、情報を集めることに加え、実際に訓練をすることで、適切な対応を取りやすくなることを出前講座等で継続して周知します。

E:『令和3年度全国中学生人権作文コンテスト感謝状』（人権男女共同参画課）

法務省と全国人権擁護委員会連合会が主催する、「全国中学生人権作文コンテスト」において、「人権意識の高揚に尽力したこと」が認められ、豊科北中学校と豊科南中学校が、法務省人権擁護局長および全国人権擁護委員連合会長の連名による感謝状の対象となりました。伝達は12月20日以降に実施される予定です。

F:『公共料金明細事前通知サービスの導入』（会計課）

電話料金、電気料金、上下水道使用料の口座引落情報を支払日の前日にデータで受信することで、会計課で支払処理を行うことができる「公共料金明細事前通知サービス」を導入しました。

これまで、送付された納付書に基づいて、各担当課それぞれが行っていた伝票事務を、会計課で一括して処理できるようになり、大幅な事務改善を行うことができました。

G:『市長・市議会議員選挙、衆議院議員総選挙が続けて行われる』（選挙管理委員会事務局）

10月17日に市長・市議会議員一般選挙、1週空けて10月31日に衆議院議員総選挙が行われました。また、4月25日には参議院長野県選出議員補欠選挙が行われており、本年度は合わせて4選挙が執行され選挙イヤーとなりました。

政策部
重大ニュース・トピックス
(令和3年を振り返る
・政策部の出来事)

A:『宮澤宗弘市長退任』

平成21年10月の就任から3期12年にわたり市長を務めた宮澤市長が退任。10月22日に行われた退任式では、「職員の皆さんと力を合わせ、難しい課題に挑戦し一つずつ解決することができた」と職員の協力に感謝するとともに、これからの安曇野市を担う職員に対しエールを送りました。

B:『太田寛市長就任』

10月17日の市長選挙で初当選を果たした、太田寛新市長が10月25日初登庁。職員への訓示では「市民が安曇野市に住んで良かったと実感でき、誇りを持てるまちづくりに取り組んでいきたい。職員である前に一市民であるとの立場から提案をいただき、より良い安曇野を創っていきたい」と挨拶しました。

C:『コロナ感染が疑われる方の送迎専用車両購入事業の実施』(政策経営課)

運転手が防護服装備などの感染防止対策を講じ、コロナ感染が疑われる方の医療機関送迎を行う市内タクシー事業者に対し、送迎専用車両の購入補助を行いました。これにより南安タクシー(有)において1台の専用車両を10月12日に導入しました。コロナ感染を疑う症状が発生し検査を受けに病院へ行きたいが、移動手段がない方の足として活躍します。

D:『定時定路線の充実』(政策経営課)

対象者のニーズを把握し、7月5日から定時定路線をリニューアルしました。豊科～田沢駅路線については、豊科高校・南安曇農業高校近くにバス停を新設、また16時高校前発の便など4便を増便しました。また穂高～明科駅路線についても、明科高校前のバス停を新設、さらに16時高校前発の便など3便の増便を行いました。コロナ禍の影響もあり利用者は横ばい傾向ですが、高校生の利用者は少しずつ増えている状況です。

E:『オンライン移住相談をはじめました』(政策経営課)

移住定住にかかわる相談業務を充実させるため、6月9日からオンラインによる個別移住相談をはじめました。大人数で行うセミナーや相談会では個人にかかわる質問をしにくいところがありますが、個別相談は踏み込んだ質問が行えるため、利用者には好評です。大都市から地方への関心が高まる中、安曇野市の移住相談も増加傾向にあるため、機を逸さないように従来の業務と合わせて移住業務に取り組みます。

F:『東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業、新型コロナウイルスで一部断念』(政策経営課)

7～9月にかけ、1年延期となっていた東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されました。一部会場を除き無観客での開催となったことや新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた姉妹都市クラムザッハの住民を招いて安曇野市民と共に行く応援ツアーやパブリックビューイング、オーストリアカヌー連盟関係者を招いての交流事業については、6月16日に断念することを決定しました。

G:『コロナ禍でのホストタウン事業』(政策経営課)

東京2020オリンピック・パラリンピックに合わせた応援ツアー等を断念した一方、コロナ禍ならではのホストタウン事業を実施しました。姉妹都市のクラムザッハがありホストタウン相手国でもあるオーストリアへの理解・関心を高めるため、小中学校の給食でオーストリアにちなんだメニューを提供したほか、カヌーなどウォータースポーツをPRするためラフティング体験を6月27日に開催しました。8月25日には岩手県矢巾町、栃木県那須塩原市と連携してオーストリア選手とのオンライン交流等を行ない、関係者からも非常に喜ばれました。



H:『ホームページリニューアルと広報紙の発行回数見直し』(秘書広報課)

市のホームページを再構築し、3月1日にリニューアルオープンしました。変更点としては、閲覧者が検索しやすい分類整理やスマートフォンでも見やすいデザインに改編しました。また、安曇野の暮らしの魅力を主に都市生活者に紹介するシティープロモーションサイトを開設しました。また、4月21日発行の「広報あづみの」から発行回数を月2回から原則月1回に変更し、掲載情報の集約を図りました。

I:『デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進本部の設置』(情報統計課)

国の「デジタル・ガバメント実行計画」において、自治体の重点取り組み事項とその内容をまとめた「自治体DX推進計画」に基づき、本市が目指すべきデジタル技術活用による進化した「スマート・安曇野」を実現するために、全庁において横断的な連携と情報共有、意識の醸成を図る目的で「DX推進本部」を8月2日に設置しました。

J:『令和3年経済センサス-活動調査』(情報統計課)

経済センサス-活動調査は、全産業分野の売上や費用などの経理項目を把握し、我が国の事業所・企業の経済活動を明らかにするために6月1日を基準日に行われました。この調査には、約50人の調査員・指導員に従事頂きました。なお、調査結果の公表(速報)は令和4年5月末を予定しています。

財政部 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る・財政部の出来事)

A:『財政計画の第6次見直し』(財政課)

令和3年3月に財政計画期間を令和3年度から令和9年度までとする第6次見直しを行いました。

新型コロナウイルス感染拡大などによる社会情勢の変化や旧合併特例事業債の発行期限が令和7年度に迫るなか、既存施設の統廃合及び長寿命化への取り組みを踏まえ、さらに第2期安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略や令和5年度からの第2次安曇野市総合計画基本構想・後期計画など、新たな計画の実現を見据え、現状に即した財政計画を作成し、今後の財政運営の指標としました。

B:『税に関する作文・ポスターの表彰』(税務課)

本市、本市教育委員会、松本税務署などで構成する租税教育推進協議会が募集した『中学生・高校生の税に関する作文・ポスター』について、作文596編、ポスター163点の応募がありました。

11月17日に本庁舎で表彰式を開催しました。優秀な作品として、税務署関係入賞10人、市長賞8人、教育委員会賞23人へ賞状と記念品を贈呈しました。

なお、市長賞のポスター2点は申告期間のポスターとして活用をします。

C:『RPAソフトウェアの活用・拡大』(税務課)

昨年度作成したシナリオ(ロボットの作業手順)に加え、「住登外宛名登録、共有コード作成、圃場整備仮換地課税、路線価修正率反映、登記名義人入力、等」の業務に新たに適用しました。今後も対応業務を増加させるとともに、既存のシナリオに対しても、通年使用を可能とするための見直しや、法務局連携に対応した仕様変更、折衝記録の登録者を選択可能にする等、汎用性を高めるための改善を行ない、活用の幅を広げていきます。

D:『法務局との登記情報電子データの連携開始』(税務課)

従来、印刷物として法務局より提供されていた登記済通知書の電子データでの提供が開始され、基幹業務システムへの取り込みを行なえるようになりました。

提供初年度のため、今後も運用の調整は必要となりますが、業務の効率化に向けて活用していきます。

E:『11年連続 滞納額を縮減!』(収納課)

長野県滞納整理機構との連携により市税等の累積滞納額を約6,800万円縮減しました。

内訳として、	市税	△2,500万円
	国保	△4,100万円
	後期	38万円
	介護	△250万円

今後も税負担の公平性と自主財源の確保に努めてまいります。

F:『キャッシュレス納税を推進』(収納課)

コロナ禍に対応し本年4月より、スマートフォンやタブレット端末アプリで、納付書に印字されているバーコードを読み取ることで自宅でも簡単に納税が出来ることとなりました。

利用出来るスマートフォンアプリは
PayPay LINEPay

支払い出来る税目等は
市県民税 固定資産税 軽自動車税種別割
国民健康保険税 介護保険料
後期高齢者医療保険料

G:『安曇野市総合体育館しゅん工』(総合体育館建設推進課)

令和元年度より建設を進めてきた安曇野市総合体育館が工期を前倒してしゅん工したことから、令和3年10月8日に大勢の来賓にご臨席をいただき、しゅん工式を挙行することができました。

本施設は、大規模なスポーツ大会の開催はもとより、各種イベントや、健康・体力づくり、また地域の防災拠点の機能も備えた重要な役割を担った施設です。

今後は、この新しい体育館が大いに利用されることを期待しています。

H:『ネーミングライツ・パートナー決定』(総合体育館建設推進課)

市で初めてとなるネーミングライツ・パートナーの募集を、新総合体育館を対象に行いました。

審査の結果、ネーミングライツ・パートナーは「あづみ野テレビ(株)」、愛称は「ANCアリーナ」となり、6月30日に契約を締結しました。今後はこの愛称が広く認知され、親しみを持って利用される体育館になることを期待しています。

○期間:令和4年1月から令和9年3月

○ネーミングライツ料:100万円/年

I:『不用公用車の売却で自主財源確保』(財産管理課)

積極的な自主財源の確保を目的として、平成25年度から不用となった公用車の売却を一般競争入札で実施しています。

7月に実施した入札では、消防自動車、塩カル散布車、軽トラックなど計5台を売却し、約560万円の収入を得ました。

今後も適正な財産「保持」と売却も含む「管理」により、自主財源の確保に努めます。

市民生活部 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る・市民生活部の出来事)

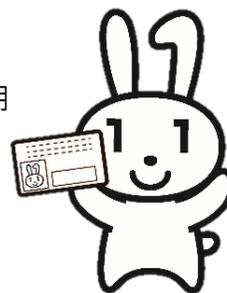
A: 『市民活動の交流イベント「ゆるつな」を開催』 (地域づくり課)

市民活動サポートセンターは、市民活動に取り組む人を中心に、さまざまな分野・立場の人が気軽に集まり、ゆるくつながるイベント「ゆるくつながって楽しく過ごそう」(ゆるつな)を5月に始めました。基本的に毎月第1日曜日に市役所本庁舎で開き、これまでに計6回開催しました。

各回では、記事の書き方やホームページの作り方を学んだり、情報交換を図りながら交流を深めました。ゆるつなは令和4年も引き続き開催していく予定です。

B: 『マイナンバーカード交付増加』(市民課)

マイナンバーカードの健康保険証利用の試行運用が3月開始となったことや、国におけるマイナポイント事業により、マイナンバーカードの申請件数が増加し、安曇野市のマイナンバーカード交付率が令和2年12月末の21.74%から令和3年10月末の35.04%と急増しました。



C: 『「わがまちの空家対策」を市民協働事業で実施』(環境課)

「明科駅周辺まちづくり委員会」「NEX-T安曇野」と市民協働事業を実施しました。空家の利活用促進のため、「明科駅周辺空き家空き店舗まちあるき見学会」を3回行い、延べ70人が参加しました。地域の歴史文化を学びながら魅力発信と空家内覧によるマッチングの実施や、空家発生の抑制、予防啓発や住宅診断、相続等のワークショップや相談会を5回行い、延べ97人の参加を通じて認識を深めました。今後の官民連携体制の基礎として、予防啓発、適正管理、利活用、管理不全空家の解消等に活かしていきます。

D: 『穂高広域・新ごみ処理施設が稼働』(廃棄物対策課)

平成30年度から進められてきた穂高広域施設組合新ごみ処理施設建設工事が、令和3年2月28日に完成し、3月1日から新ごみ処理施設が本格稼働しました。

総事業費 100億4400万円。

既存施設では処理ができなかった「可燃性粗大ごみ」が有料で受け入れ可能となったほか、令和3年5月からもえるごみ専用指定袋大サイズ(50ℓ)が追加されるなど利便性が向上しました。



穂高広域施設組合 新ごみ処理施設

E: 『もえるごみ専用指定袋を無料交付』(廃棄物対策課)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、自宅にいた時間が増え、家庭系ごみの排出量が増えたことなどから、市では、コロナ禍における緊急経済支援対策として、もえるごみ専用指定袋を市民一人に対して指定袋1パック(中サイズ・10枚入り)を無料で交付しました。

引換期間は6月1日から9月30日までで、対象世帯数約4万世帯のうち約3万2千世帯に交付し、引換率は約81%でした。

G: 『堀金支所空調機器更新工事』(堀金地域課)

老朽化により不具合が発生している堀金支所の空調機器について、不具合解消に向けて更新工事の設計業務が完了しました。

行政サービスの地域の窓口として、また、市民の交流の場として、利用する皆様に快適で安全・安心に施設を利用していただくため、令和4年度の工事発注・完成を目指します。

F: 『第36回ふるさと夏祭りの開催』(三郷地域課)

第36回ふるさと夏祭りを、令和3年8月7日に開催しました。

昨年同様中止も検討されましたが、三郷地区の企業の皆様から協賛金に賛同を頂き、感染症対策のため、三郷文化公園内での、イベント・ステージ・屋台の出店等は行えませんでした。新型コロナウイルス鎮静を祈願し、約20分間、185発の花火の打ち上げを実施しました。

H: 『大雨で警戒レベル5「緊急安全確保(土砂災害)」発令』(明科地域課)

大雨警報(土砂災害)中の8月14日9時43分、南陸郷、東川手、七貴、中川手地域に「避難指示(土砂災害)」が発令され、14時18分には同地域に「避難指示(河川氾濫)」も発令されました。同日17時03分には潮沢・潮・明科・町・宮中・大足区に、21時00分には木戸・上生野区に「緊急安全確保(土砂災害)」が発令されました。

14日から18日まで明科公民館に開設した避難所では、健康チェックやスペース確保などの新型コロナウイルス感染症に対応しながら、延べ22世帯50人の避難者を受け入れました。

福祉部 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る ・福祉部の出来事)



A: 『福祉事業所への衛生用品の配布』 (長寿社会課・福祉課)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市内の高齢者施設及び障がいサービス事業者に対しアルコール消毒液を始めとする衛生用品を無償配布しました。

感染防止に取り組む市内の福祉事業所を支援することで、福祉サービスの安定した提供に資することが出来ました。



B: 『ひきこもり対応推進事業の強化』 (福祉課)

潜在化しているひきこもり者への支援体制充実のため、相談支援・居場所支援・訪問支援の委託を行いました。

これにより、相談窓口が4か所に増え、居場所も新規設置することが出来ました。

アウトリーチが出来る体制も整え、安心して相談し、支援を継続できる体制づくりを進めています。

C: 『生活困窮者自立支援金の支給』 (福祉課)

新型コロナウイルス感染症の影響で生活に困窮する世帯を対象に、就労による自立を図ること等を目的として、国の政策に基づき「自立支援金支給事業」を実施し、支給決定83件に対して13,160千円を支給しました。(11月末現在)

影響の長期化を受け、当初令和3年8月末までだった申請期限が令和4年3月末まで延長されています。



D: 『あづみの自然保育を強化』 (子ども支援課)

市が進める“自然保育”を広く全国にPRするため、2人目の地域おこし協力隊(安曇野自然保育ブランディング保育士)を募集・選考のうえ採用しました。

市内で安曇野の自然環境を活かした質の高い幼児教育を行う保育施設の取組みや、子育て支援情報などをSNSなどを活用し市内外へ情報発信しました。

E: 『三郷西部認定こども園の建て替え工事に着手』 (子ども支援課)

三郷西部認定こども園の建設事業に着手し、地形・用地測量業務、地質調査業務が完了しました。

今年度中に園舎本体工事の施工業者を選定して、建築工事に着手する予定です。

令和5年2月の園舎完成、令和5年度事業完了を目指し、子育て環境の整備を進めていきます。

F: 『たつみ認定こども園整備工事が完了』 (子ども支援課)

平成29年より事業を進めてきました、園舎の現地改築事業が、今年度の植栽工事をもって、全て完了しました。

敷地を拡張して、園舎・園庭も広くなり、のびのびと生活し、遊べる保育環境が整いました。

また、未満児保育や長時間保育など、保育に対する多様な要望にお応えすることが出来るようになりました。

G: 『明科北認定こども園で引き継ぎ保育が始まる』 (子ども支援課)

市内公立園で初となる民営化として、明科北認定こども園の保育業務を令和4年度から委託するための引継ぎ保育を、保育業務委託先であるNPO法人響育の山里くじら雲と安曇野市により令和3年4月から開始しました。

信州型自然保育(特化型)に対応した特色ある幼児教育を受けることが出来ることから多様な保護者ニーズに応えます。

保健医療部 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る・保健医療部の出来事)

A:『新型コロナウイルスワクチン接種』 (健康推進課)

12歳以上の方を対象に新型コロナウイルスワクチン接種を実施しました。

国が示す優先順位に従って、医療従事者を3月から開始し、感染するとリスクの高い65歳以上の高齢者から年齢順に接種を進めました。

■接種率(12月2日現在)
1回目: 90.89% 2回目: 88.87%

B:『介護事業所へ衛生用品の配布』 (介護保険課)

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、消毒用オートディスペンサー等の衛生用品を、希望する市内の介護保険サービス事業所等に対し、無償配布しました。

今後も、介護保険サービスの安定した提供を図るため、感染防止に取り組む市内の介護保険事業者を支援する取組を実施してまいります。

C:『高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の開始』 (健康推進課・介護保険課・国保年金課)

医療保険制度の適正かつ効率的な運営を図るための健康保険法等の一部を改正する法律に基づき、高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施し、フレイル、認知症、骨折予防等を含めた重症化予防による健康寿命の延伸と社会保障費の安定を図る取り組みを開始しました。

【取り組み内容】

- 健診データ、医療レセプトなど国保データベースシステムに基づく市の健康課題の分析、対象者把握、事業企画調整の実施
- 高齢者への個別支援として低栄養防止、糖尿病重症化予防、循環器疾患(高血圧等)による脳卒中発症予防の訪問等指導の実施
- 個別指導を取り入れた高齢者の通いの場でのポピュレーションアプローチによる健康教育、保健指導と医療、介護サービス等へのつながりの強化

D:『マイナンバーカード利用拡大』 (国保年金課)

マイナンバーカードを保険証として使用できる制度が始まりました。

県内378医療機関(市内10か所)で使用可能で今後拡大していく予定です。(11/28現在)

- * 保険証利用登録が必要です。
- * 保険者への加入手続きは引き続き必要です。



E:『特定健診(集団健診)の土・日曜日開催』 (国保年金課)

市の特定健診は毎年、若年層の受診が少ないことが課題です。そこで、「平日は就業しているため健診を受ける時間がない」という若年層の皆さんにも受診しやすくするため、土・日曜日の開催を決めました。実施は令和4年1月に穂高保健センターで行います。次年度以降も継続していきます。

F:『第8期介護保険事業計画の策定』 (介護保険課)

3月に令和3～5年度を計画期間とした「第8期介護保険事業計画」を策定しました。

本計画では、団塊の世代が後期高齢者となる2025年、現役世代が急減する2040年の双方を念頭に、地域包括ケアシステムの整備、さらに介護等のサービスの充実と、高齢者等を支える地域づくりを一体的に推進し、地域共生社会の実現を目指します。

農林部、農業委員会事務局 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る・農林部の出来事)

B:「凍霜害及び強風による農作物被害」(農政課) —4月、8月—

4月6日から27日の間に穂高地域から三郷地域にかけて3回にわたり低温凍霜が発生し、果樹を中心とした農作物に甚大な被害を及ぼしました。凍霜害は、冷たい空気が下に溜るため、開花時期と重なるりんご等は、目線より下の花芽が多く被害を受け、被害総額は311,026千円となりました。

また、8月1日には三郷小倉地域において突風(風速22.6m/sと推定)が発生し、果樹農家を中心に倒木や作物の落下、トレリスの倒壊等の被害が発生し、被害総額は6,340千円となりました。

C:『第7期安曇野市農業委員会の発足』(農業委員会事務局) —7月—

農業委員・農地利用最適化推進委員の任期満了に伴い、7月20日に農業委員辞令交付式が開催され、農業委員24人が市長から任命されました。

同日に開催された農業委員会臨時総会において、会長、会長代理、副会長の三役が選出され、その後、新会長から農地利用最適化推進委員27人に対して委嘱書を交付しました。

これにより、新たな51人の委員による体制へ移行となりました。

E:『8月豪雨災害』(耕地林務課) —8月—

前線の停滞に伴い、九州北部地方を中心に日本各地で集中豪雨が発生し甚大な被害をもたらした8月豪雨災害は、激甚指定となりました。

当市でも、頭首工(豊科光犀川用水、田沢重光堰)2か所他が被害を受けました。11月29日に国の災害査定があり、国庫補助事業に認定されました。今後、災害復旧工事を進め早期の復旧に努めます。

F:『「あづみ農村ワーケーション」の開催』(農政課) —10月—

農家民宿では、今後、意欲的な受入農家を中心に「広がりのある受入」を進めていきたいと考えています。その試みの一つとして、ワーケーション対応の農家民宿を活用した3泊4日の研修ツアー「あづみ農村ワーケーション」を10月に開催しました。ツアーでは、都市部の企業で働く人を招待し、市職員や農業者、受入農家とともに、市の農業振興について事業提案をしてもらいました。外部からの視点、女性の視点などからワークショップとプレゼンを実施し、参加者からも高い評価をいただきました。今後も農業振興を図るために、事業の拡大を図っていきたいと考えています。

H:『三郷西部認定こども園(木造建築物)の建築用資材に安曇野材の活用!!』(耕地林務課) —10月—

三郷西部認定こども園の建設開始を令和4年度に控え、木材価格が高騰する「ウッドショック」の状況を踏まえ、建築用資材の安定確保のため、三郷・堀金地域の市有林(ヒノキ・カラマツ・アカマツ)を伐採した“安曇野材”を建築用資材として供給する事業が開始されました。庁内、課の垣根を超えた連携体制により、来年度の建設開始に合わせて、市有林の伐採作業が進められています。また、引き続き公共施設へ木材を利用するため、市有林の計画的な伐採を進めるとともに、健全な森林管理を行います。

I:『第3次農業・農村振興基本計画中間答申』(農政課) —10月—

令和4年度から令和8年度までを計画期間とする第3次基本計画(案)が農業農村振興計画推進委員会から中間答申されました。

第2次基本計画の実施状況の点検評価結果、農業者アンケート、ヒアリング結果の分析を踏まえ、市農業の「目指すべき姿」を設定し、第1次計画から引き継いできた3つの施策の柱「稼ぐ」「守る」「農と生きる」ごとに振興方針、施策が再整理され体系化されています。

今後、パブリックコメントを経て、来年3月には公表していく予定です。

A:『三郷やすらぎ空間、プラザ安曇野の指定管理業務開始』(農政課)

—4月—

農政課が所管する2つの施設について、新たな指定管理者による業務が開始しました。

「三郷やすらぎ空間」株式会社かまくらやが施設周辺の農地を利用して実施する農業体験の拠点としてイベント等に活用しています。

「プラザ安曇野(安曇野の里内)」株式会社業師平リゾートがまちの駅安曇野ベースとしてプラザ安曇野の直売所及び食堂部分を管理運営しています。

D:『公共施設再配置計画に伴う公募の開始』(農政課) —7月—

ファインビュー室山及びほりで一ゆ〜四季の郷のあり方については、平成27年に公共施設再配置計画で示された基本方針に基づき、これまで検討を重ねてきました。検討の結果、いずれの施設も、市が出資する第三セクターの経営を民間事業者に移譲し経営基盤を強化するとともに実質的な経営を民間に移行する方針としました。その上でファインビュー室山は、令和5年度に第三セクターに施設を譲与する計画としています。民間事業者の要件や移譲後の施設のあり方、必要な手続き等について検討や確認を行い、本年7月に経営移譲先となる事業者の公募を開始しました。

G:『森林所有者と林業事業体を結ぶマッチングの開始』(耕地林務課) —10月—

未整備森林の森林整備を促進する「森林経営管理制度」が始まり、森林所有者への意向調査が昨年度より開始されています。調査の中で森林の管理を任せたいと回答した所有者と、森林整備を実施する林業事業体の両者を市が結ぶ仕組み「マッチング」を現在構築しています。今後マッチングを進めることで、林業経営の効率化と森林管理の適正化を図り、健全な森林を育成していきます。

J:『経営体育成基盤整備事業烏川地区のほ場整備事業が終盤を迎える!!』(耕地林務課) —11月—

平成21年に事業採択を受けて以来、13年と言う長い歳月を経て進めてきた烏川地区のほ場整備の工事は、令和2年度の工事をもって完了しました。

去る11月30日に開催した権利者会議では権利者から換地計画等について無事承認が得られました。

ことから今後、県の認可手続き等を得て、令和4年6月頃には換地処分登記される見通しとなりました。

長きにわたる事業にいよいよ幕が下ります。

**商工観光部
重大ニュース・トピックス
(令和3年を振り返る
・商工観光部の出来事)**

**A:『あづみ野産業団地拡張事業造成工事しゅん工 企業に
分譲』(商工労政課)**

5月

地域未来投資促進法を活用して「あづみ野産業団地」を北側に拡張する「あづみ野産業団地拡張事業造成工事」が完了し、5月27日に豊科高家の造成地でしゅん工式を行いました。

開発面積は75,459㎡で、同日、進出予定企業3社と土地売買仮契約を締結し、5月31日の市議会の議決をもって売却しました。1街区40,820㎡を(株)スー ジャムに、2街区11,311㎡を東邦電気(株)に、3街区 6,981㎡を山清電気(株)にそれぞれ分譲し、各社、令和4年度中の操業を目指して工場を建設しています。

**B:『オンラインマラソン大会「安曇野ランラン～FUN LAN
RUN～」開催』(観光交流促進課)**

6・7月

新型コロナウイルス感染症の影響で2年連続で中止となった信州安曇野ハーフマラソンに代わり、初のオンラインマラソンを開催しました。すべての都道府県から定員を超える2,733人の参加があり、各地で安曇野を共通項にそれぞれのペースで走りました。参加者同士がつながれるよう「写真で繋がろう安曇野FUN LAN RUN フォトコンテスト」を開催、抽選で安曇野の特産品を贈るなど安曇野の魅力を発信することができ、安曇野ファンの思いを次回大会へつなぐ形を残せました。

**C:『コロナ禍での地域経済継続に向け、安曇野つなぐプ
ロジェクトの取り組みを継続』(商工労政課・観光交流促
進課)**

1月～

新型コロナ感染症の影響が長引く中、昨年立ち上げた市と市商工会、市観光協会が行う一連の地域経済活性化事業「安曇野つなぐプロジェクト」を引き続き展開しました。

昨年度新設した「新型コロナウイルス対策特別資金」の取扱期間を12月末まで延長し、事業者の資金繰りを支援したほか、昨年暮れの第3波、7月の第5波の影響を受けた飲食店やその取引事業者、宿泊事業者への各種応援給付金事業等により切れ目のない支援を実施しました。

また、10月の行動制限緩和以降は、感染防止対策をしつつ経済活動の早期回復や、来年春の観光シーズンに対応できるよう、市内飲食店や宿泊事業者が県の「信州の安心なお店」認証を地域一体で取得するよう取り組みを進めています。



**D:『田んぼに御嶽海 信州安曇野田んぼアート』(観光
交流促進課)**

6月～10月

2年ぶりの開催となった田んぼアートは、長野県出身の大相撲力士、御嶽海関をテーマに実施しました。

2019年の台風19号被害後の、想いをひとつにみんなで復興に取り組む「ONE NAGANO」の合言葉をデザインに添え、力強い絵柄とともに、このコロナ禍を「ひとつになって乗り越える」意味と願いを込めました。

東京や愛知ほか複数都道府県で緊急事態宣言が発令されている厳しい状況のなか、県内を中心に誘客活動を行いました。関係者によるこまめな田んぼの手入れも奏功し稲の状態を良く保てたため、見頃の時期が長く続きました。観覧期間中は合計37,689人の来場があり、展望台で風を感じながら、アルプスを背景にした巨大アートを楽しんでいただけました。

**E:『若者の視点で穂高天蚕糸の魅力発信』(観光交流促
進課)**

7月～

市や観光協会などで組織する「安曇野市海外プロモーション協議会」では、市の観光資源の1つである「穂高天蚕糸」の魅力を国内外に発信するため、若者の視点で新たな商品開発につなげる取り組みを始めました。この取り組みは、地域おこし協力隊員のミッション総括として企画したもので、全国から集まった服飾系専門学校の学生10人が、安曇野の天蚕糸の魅力や課題などを学んだ後、グループごとに天蚕糸を使ったビジネスプランの企画作成を行います。学生たちは、オンライン会議で話し合いを重ね、年度末のコンテストでの発表に向けて準備を進めています。

**F:『燕岳公衆トイレ改修にクラウドファンディング活
用』(観光交流促進課)**

6月～9月

持続可能な山岳環境の保全を目的として、燕岳稜線上にある市所有の公衆トイレを環境配慮型トイレに改築する工事に着手しました。また、この事業に併せて「一緒につくろう・まもろう 北アルプスパノラマ銀座100年プロジェクト」と題し、クラウドファンディングによる寄付を6月14日から9月11日まで募集しました。

この取り組みに対し、全国の539人の皆様から目標額500万円を超える708万9千円のご寄付と、200件以上の暖かい応援コメントをいただきました。

G:『林檎ナポリタンの輪広がる』(観光交流促進課)

11月

特産のリンゴを使ったご当地グルメ「安曇野林檎ナポリタン」は登場から8年目を迎え、本年も市内外14店舗で提供されています。

今年から、同じリンゴの産地である青森県弘前市でも「弘前林檎ナポリタン」として提供が始まりました。コロナ禍のまちを元気にしたいと集まった弘前市の若手飲食店の皆さんが「安曇野林檎ナポリタン」を知り、市に連絡があったことがきっかけで、弘前産のリンゴを使ったナポリタンが誕生しました。

林檎ナポリタンをきっかけに、産地をつないだ新たな取り組みが期待されるなど、夢が広がる出来事です。

都市建設部 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る ・都市建設部の出来事)

C:『松系道路都市計画決定』

(監理課・都市計画課)

県事業の松系道路は昨年8月にルート帯が決定したことから、県でルート線の検討や地形測量等を行ってきました。その後、本年6月に地元説明会を開催し、ルートの中心線と合わせて道路の構造や都市計画決定の手続きに向けた説明をおこない、9月16日に都市計画決定されました。今後は、県に協力して来年度からの新規事業化を目指します。

E:『除雪機会が減少』

(建設課)

令和3年冬の降雪量は暖冬の影響もあり例年より少なく、市内では除雪機会が減少しました。道路管理者としては雪による交通障害の減少、除雪による経費が軽減される一面もありましたが、除雪を受託した皆様にとっては、万全の体制を確保して頂いたにも関わらず少し残念な結果でした。今期も除雪受託者の皆様と連携し、除雪作業に努めます。

H:『大規模盛土造成地の変動予測調査』

(建築住宅課)

平成30年度の抽出調査に基づき、市内の大規模盛土造成地の現地踏査、簡易地盤調査を実施しました。全盛土(7か所)ともに滑动崩落等の危険度は「低い」との調査結果を得ており、今後の詳細調査や対策工事の必要性について、県との協議をすすめています。

A:『市営住宅の修繕に着手』

(建築住宅課)

安曇野市公営住宅等長寿命化計画に基づく長寿命化対策として、昨年度の田沢団地に続き、追分団地の外壁・屋根等の塗装修繕に着手しました。全6棟(A棟～F棟)を令和7年度までに施工する計画で、今年度はA棟を施工しました。

D:『口座振替始めました』

(監理課)

納付者からご要望を頂いていた、電柱の設置や水路に橋を架けるときなどの占用料の納付方法について、令和3年度(継続分)の占用料から口座振替ができるよう事務改善をはかり、ご登録頂いた全員が口座振替日に引き落としになりました。引き続き、簡単な手続きで安全かつ便利に占用料がお支払いいただける口座振替をPRしていきたいと思えます。

F:『明科駅周辺の整備』

(都市計画課)

国道19号の歩道整備に合わせ、平成30年度から明科駅前周辺の整備を進めています。本年度は、明科駅前のコインパーキングが10月から利用開始となりました。

また、昨年度に引き続き、駅前広場整備、街路灯整備、周辺道路整備、公園整備を実施しており、安曇野の東の玄関口にふさわしいまちづくりを進めています。

I:『噴水を改修』

(都市計画課)

豊科南部総合公園には、平成9年に設置された山型の噴水がありますが、老朽化が進み一部利用を制限していました。本年度、長寿命化計画に基づき、国の交付金事業を活用した噴水の改修工事に着手し、利用者が水に親しむことができることをコンセプトに、段差の無い造りで安全面や衛生面に配慮しています。完成は来年3月頃で夏場の利用開始を予定しています。

B:『令和3年8月の大雨』

(監理課、建設課)

今年8月の大雨は、犀川の国交省陸郷観測所において、昭和39年以降観測史上第4位となる水位5.38mを記録しました。水位の上昇で、犀川左岸に設置されていた樋門5か所を閉鎖したため、樋門周辺で内水氾濫が発生。地元消防団や建設業者の懸命な排水作業に加え、国交省から派遣された排水ポンプ車の活躍で、被害を最小限に抑えることができました。

また、市道では法面崩落などの大きな被害はなかったものの、未舗装道路の洗堀や土砂が流入したことによる土砂の堆積など、22か所が被災したため、補正予算を計上するなどして災害復旧に取り組み、全ての復旧が完了しました。

G:『記念樹制度を改定』

(建築住宅課)

お子さんの誕生、住宅の取得をした市民の方に記念樹を配布する事業を、「該当事由発生から1年以内に申請可能」に変更して、今年度も実施しました。どんな樹木が好まれているのか、ベスト5を発表します。

(10/31現在、447件配布)

第1位	ブルーベリー	59件
第2位	ヤマボウシ	34件
第3位	キンモクセイ	32件
第4位	ドウダンツツジ	31件
第5位	ハナミズキ	30件

J:『情報案内板の整備』

(都市計画課)

平成30年に策定された「安曇野市公共サインガイドライン」に基づき、図案や色など統一されたデザインの公共施設案内板、観光施設案内板の整備を進めています。整備により市民サービスの向上に繋がるほか、目的地が視覚化されることで観光客にとっても満足度が上昇することが期待されます。本年度は、豊科南部総合公園や堀金総合体育館、明科支所などの情報案内板整備を進めています。

上下水道部 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る ・上下水道部の出来事)



市オリジナル
ボトル



マンホール蓋
「水鏡」(みずかがみ)

A: 『上下水道料金センター業務委託契約更新』 (経営管理課)

安曇野市役所堀金支所内に所在する上下水道料金センター（業務委託先:ヴェオリア・ジェネッツ(株)北陸支店）が令和3年9月30日をもって、5年間の業務委託期間満了に伴い、次期委託企業の選定を令和2年度に3社出席の下、プロポーザル審査を実施しました。審査の結果、ヴェオリア・ジェネッツ(株)北陸支店が最高順位となり、令和3年10月1日から令和8年9月30日までの5年間、上下水道料金センター業務の委託契約を締結し、上下水道使用者の皆様へ継続してサービス提供を行うことになりました。

B: 『水道水飲用推進事業』 (経営管理課)

あづみの名水クリアボトル（市オリジナルボトル）を1,000本限定で作製及び販売しました。7月22日から市内5か所の店舗などで800本販売しましたが、予想以上に好評で翌日には完売となりました。経営管理課窓口においても、26日から200本販売し、同日午後には完売となりました。また、水道水の飲用推進に伴い屋外給水機（ボトル専用）3機を順次設置しておりますが、冬期間は凍結防止のため閉栓しており、令和4年3月中旬にはお披露目し、皆様にご利用いただけるようになります。

C: 『濁度計設置工事』 (上水道課)

安曇野市水道ビジョンに基づき、市内8か所の拠点配水池の水源に濁度計を設置しています。地震時などに突発的な濁りが発生した場合、配水池の中に濁水が混入しないよう、濁度計で常時監視をして水道水の安定供給を行います。

令和3年度は、上原第4水源の濁度計設置工事を進めています。



D: 『指定避難所等への主要管路整備』 (上水道課)

水源地から拠点配水池へ送水する導水管や、災害時の避難所、病院、市役所等、重要給水施設へ配水する配水管を主要管路として位置づけ、耐震性能を有する管種を用いて新設管布設工事を実施しています。



E: 『マンホールカードの作製・配布』 (下水道課)

下水道への関心と魅力発信、さらに観光振興につながればと期待し、マンホールカードの配布を4月25日から始めました。

カードの収集性が高く、安曇野市へ訪れていただかないと手に入ることができないため市内のほか全国各地より延べ3,020人の方にお渡ししています。



F: 『広域監視通報装置更新工事』 (下水道課)

安曇野市下水道ストックマネジメント計画に基づいたマンホールポンプ場や汚水処理場の機械設備等の異常通報や、日常の運転状態を監視する通報装置（166か所）の機器更新作業を進め、令和4年4月からの運用を開始します。



改修前

改修後

教育部 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る ・教育部の出来事)

A:教育委員に須澤氏再任 羽田野氏就任(学校教育課)

令和3年市議会第1回臨時会での同意を得て須澤真広教育委員が再任、羽田野賢二教育委員が就任されました。任期は本年11月9日から4年間です。教育委員は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものうちから、市長が市議会の同意を得て任命します。

B:GIGAスクール1人1台端末の配備完了(学校教育課)

GIGAスクール構想に基づく校内ネットワーク環境整備と児童生徒への1人1台端末の配備が完了しました。端末を学習ツールとして子ども達が主体的に学習し理解を深める授業を実現していきます。併せて、情報社会で安全に生活するための知識やネット依存などの健康面の影響についても指導していきます。

C:中学生議会を開催(学校教育課)

中学生議会を11月13日に開催しました。学校毎に選んだ課題について市政講座を行い、中学2年生全員が学習記録をまとめ、代表生徒が、仲間の考えも反映して課題解決の市政への提言を作成して、議場で市長に質問しました。



D:学校給食非常用レトルトカレーを購入(学校教育課)

災害や給食設備の急な故障などで給食の提供が困難な場合に対応するため、学校給食として全国の栄養教諭等が開発した非常用レトルトカレー「救給カレー」を2,800食購入しました。原材料は国産で、アレルギー特定原材料等28品目を使用していません。温めなくても、水がなくても、そのままおいしく食べられ、賞味期限も3年6カ月あります。

E:豊科南部総合公園の指定管理者指定(生涯学習課)

令和3年市議会3月定例会において、豊科南部総合公園の指定管理者が「ミズノ・安曇野市スポーツ協会・A&Sグループ」に指定されました。10月8日に竣工式を迎えた市総合体育館(ANCアリーナ)を含む指定管理者として、自主事業など魅力あふれる運営が期待されます。指定期間は令和4年1月1日から令和9年3月31日(5年間3カ月)の予定です。

F:市営穂高プール33年の歴史に幕(生涯学習課)

平成元年のオープン以来、長年にわたり親しまれてきた市営穂高プールが、9月30日を以って、公の施設としての機能を廃止しました。今夏はコロナ禍の中、入場者数の制限、消毒などの感染拡大防止対策を図ったうえで開場し、19日間の開場で延べ6,053名の入場がありました。10月より令和4年3月までの予定で施設の解体工事を行います。

G:東京2020オリンピック聖火リレーが安曇野市を通過(生涯学習課)

コロナ禍で1年間延期された東京2020オリンピック聖火リレーが4月2日、本市を通過し、豊科近代美術館から堀金中堀交差点東250m地点まで約2.4km、13区間をランナーが聖火を繋ぎました。スタート地点では、豊科高校吹奏楽部が演奏で盛り上げていただいたほか「笑顔でつながろう!聖火の道」と銘打ち市内外からの応援写真とメッセージ180点を市役所前に掲示しランナーを後押ししました。

H:篠原信一氏をスポーツ大使に委嘱(生涯学習課)

10月8日の市総合体育館竣工式に合わせ、シドニーオリンピック柔道100kg超級銀メダルの篠原信一氏を「安曇野市スポーツ大使」に委嘱しました。有森裕子氏に続き2人目となります。柔道をはじめ多方面で活躍されている篠原氏には、競技スポーツの振興と市民の健康づくりを一層推進し生涯を通じて質の高いスポーツに取り組み心豊かに地域で活躍する人づくりにお力添えいただければと大いに期待しています。

I:令和3年成人式を開催(生涯学習課)

コロナ禍により1月の開催を延期した令和3年成人式を11月21日、市総合体育館で開催しました。コロナ対策を講じ、市歌合唱、交流会は行わず、写真撮影を3箇所設けることで時間を短縮して執り行いました。一生に一度の思い出となるよう実行委員15名にご協力いただき企画・運営を行いました。約600人の新成人が参加し、友人との再会を喜び、明るい笑顔があふれていました。新成人の皆さんのますますのご活躍をお祈りします。

J:安曇野市地域文化祭を開催(生涯学習課)

地域文化祭を10月22日から11月14日までコロナ対策を講じて開催し大勢の方が来場されました。
【豊科】菊花展、華道展、書道展、芸能発表会、ピアノリレーコンサート、一般作品展、短歌・俳句大会
【穂高】盆栽・山野草展、総合美術展、芸能まつり、菊花展
【三郷】文化産業展、菊花展
【堀金】芸能発表会、作品展
【明科】芸能発表会、歌声ひろば、作品展

K:「安曇野風土記IV安曇野の美術」を刊行(文化課)

文化課で刊行してきた「安曇野風土記」シリーズの4巻目として、3月に「安曇野の美術」を刊行しました。これは、江戸時代から現代まで、安曇野ゆかりの芸術家およそ80人を紹介するもので、文化課職員と市内の美術館学芸員等が協力して執筆しました。美術館で収集した作品の他に個人や寺社などが所蔵する、普段目にすることができない作品も掲載しています。市内の文化施設等で800円で頒布しています。

L:市内図書館に本の除菌機を導入(文化課)

6月から、市内5館の図書館に「書籍除菌機」を設置しました。除菌機に本を入れ、紫外線照射と除菌消臭剤の風をあてることで本をきれいにできます。本を気持ちよく利用できるようにご協力ください。



M:「拾ヶ堰絵図」の発見(文化課)

穂高柏原の個人宅で、明治初年に作成された「筑摩県管轄信濃国安曇郡拾ヶ堰絵図」が発見され、4月中旬に市文書館に寄贈されました。この絵図はこれまで確認されていましたが、約1000分の1の縮尺で全長12mの絵図は、梓川との交差や取入口などが詳細に描かれ、今後の研究に大いに役立つと思われます。



N:豊科交流学習センターの指定管理者指定(文化課)

令和3年市議会3月定例会において、4月1日より、豊科交流学習センターに指定管理者制度を導入し、隣接する豊科近代美術館を指定管理する「公益財団法人 安曇野文化財団」が指定されました。美術館と交流学習センターの一体管理により効率的な施設運営を図ります。指定期間は美術館の指定期間の満了日に合わせ令和6年3月31日までの3年間です。



議会事務局 重大ニュース・トピックス (令和3年を振り返る・議会事務局の出来事)

A:『政策提言を提出』

安曇野市議会は、各常任委員会でテーマを決め所管事務調査を重ねて、安曇野市議会基本条例第12条の規定による政策提言を取りまとめ、9月2日に市長へ提言しました。

内容

1. 空き家対策に関する提言
 - (1) 区活動への支援
 - (2) 空き家と耕作放棄地対策との連携
 - (3) 空き家リノベーションの促進
2. 学校プールの今後の方向性に関する提言
 - (1) 学校プールの共同利用等の集約化を検討すること。
 - (2) 市営の室内温水プールの建設を検討すること。
3. 地域コミュニティ維持と持続可能なまちづくりのための土地利用制度に関する提言
地域が「課題解決のために発想し、動き出す」ことが重要で、行政には、制度や仕組みを事前に伝えて地域の本気度を高めたり、地域のプランが結実するようアドバイスや可能な支援を行うことが求められる。
従来の行政の「待つ」姿勢ばかりでなく、時には、近隣市のような地域の動きを「誘う」行政への転換を提案する。

B:『第5期安曇野市議会 平林明議長・一志信一郎副議長』 ～新任議員7人。平均年齢61.7歳～

安曇野市議会議員一般選挙の投開票が10月17日に行われ、第5期市議会議員22人が当選しました。

10月29日に開催した令和3年第2回臨時会において正副議長の選挙を行い、第8代議長に平林明議員、第9代副議長に一志信一郎議員が就任しました。また、常任委員会のほか、各委員会の委員や一部事務組合の議員が決まりました。

D:『議会基本条例の改正』

平成25年施行後初めて、「安曇野市議会基本条例」の検証及び見直しに取り組みました。

全議員による検証を行い、市民から議会改革に対する意見を募集し、字句や表現の修正、議会災害対応の追加など、9月定例会において条例改正を行いました。

C:『コロナ対策に係る提案・要望を提出』

市民の皆さんの暮らしと安全を守るため、「新型コロナウイルス感染症対策に係る市議会からの提案・要望事項」を、8月4日に正副議長から市長へ提出しました。

内容

1. 新型コロナワクチン接種に関する広報
2. 外国人に対する新型コロナウイルス感染症対策
3. 新型コロナワクチン接種の早期実施
4. 市民への分かりやすい情報提供
5. コロナ禍における、子どもたちの心のストレスケア
6. 生活困窮者へのきめ細やかな支援
7. 新型コロナウイルス関連の支援施策等の情報にアクセスしやすい広報の充実
8. 新型コロナウイルス関連の支援の総合的な窓口の創設

F:『議会報告会・コロナ禍対応で録画配信』

議会報告会を1月15日に開催しました。
令和元年6月～令和2年12月までの議会活動や常任委員会による審査内容等について、報告を行いました。

なおコロナ禍であることを踏まえて市民参加はご遠慮いただき、報告会の録画配信及び資料配布という新たな方法により実施し、市民からのご意見については郵送等により募りました。

報告内容及び頂いたご意見は、議会ホームページからご覧いただけます。